

社会福祉法人 ゆうのゆう 2012 年度事業報告書

(2012 年 4 月 1 日 ~ 2013 年 3 月 31 日)



【目次】

総括 デーセンターモモの家 デーセンター機関車 デーセンター音・on デーセンター夢飛行
ことのは 被災地支援 リサイクルショップ・自主製品・利用者還元金 旅行 後援会 絵画
スプリングコンサート 医療的ケア スタッフ体制 決算

総括

私たちにとって、本年度は様々な節目の年となりました。「デーセンター夢飛行」が開所から丸20年、「デーセンター機関車」が丸10年を迎えました。また、11月にはケアホーム「ことのは」が開所。利用者さんの「親亡き後」について、ご家族と共に協議を重ねてきた「輪（つながり）委員会」約10年の取り組みが、一つの実を結びました。そして、年度末の3月には「デーセンターモモの家」の「従たる事業所」として、港区に「デーセンター音・on」が完成。地域に根差した日中生活支援の拠点はこれで4箇所目となります。

今や私たちは100名を超える利用者さんたちと日々接するようになりました。組織規模の拡大と、それに伴う利用者さんやご家族間における「世代幅」の広がりなどが、ニーズの多様化にも如実に投影されています。新拠点の設置による「拠点の分散化」や、ケアホームを含めた「新たな生活の在り方の模索」といった対応が急務となっているのもそのためです。

一方でスタッフ間にも、徐々にではありますが「世代の幅」が生じてきています。片や結婚・出産を経て自身の家庭を持つようになったスタッフの増加。片や「先輩の背中を見て育つ」ではなく、「キャリアパス」のような体系的な「働き方のモデル提示」を求める若いスタッフたちの入職。「働く」「働いて賃金を得る」ということに対する自問自答を繰り返す中で「自身の仕事」と真摯に向き合えるスタッフでありたいという思いと、勤務環境・形態への現実的な対応の必要性。これもまた組織の規模拡大に伴う大きな課題です。

利用者さんにご家族、そしてスタッフも含めた様々な世代の混在 「社会の縮図」がそこにはあります。「理想に溺れず、理想を忘れず」 そうした組織の在り方の追求が、社会をよりよいものに変えていくアクションにも直結すると信じて、今後も一つ一つの課題解決に取り組みながら、新たな世代への道を切り開いていきたいと思えます。

2013年6月14日
社会福祉法人 ゆうのゆう
代表理事 小林 美穂

デーセンターモモの家

活動状況：

今年度は6月に定員30名でのスタートを切り、一層の大所帯となりました。同時に急務であった港区新拠点整備も進め、年度末の3月には「従たる事業所」としての「デーセンター音・on」が完成。内覧会をはじめ、音・onの新体制づくりに急ピッチで取り組みながら今年度を締め括りました。

一方地域交流活動としては、例年のイエローレシートキャンペーンへの参加の他、障害者施設の自主製品アンテナショップ・Torute（トルテ）加盟施設として参加するイベントにも積極的に関わりました。特にJAIFA（＝生命保険フィナンシャルアドバイザー協会）大阪協会の研修大会における物販イベントを主導するなどして、他事業所や他業種の方々と新たな繋がりも生まれました。

年間行事：

【2012年】	
4月	入所式・モモシネマ
5月	北海道旅行・JAIFA物販会（中津ラマダホテル）・イエローレシートキャンペーン・木下大サーカス外出
6月	出張美容室・絵本読み聞かせ・大阪歯科大生実習
7月	プール外出・石川旅行・流し素麺・おやつ作り
8月	夏休み一日体験・消防訓練
9月	東京旅行・誕生日会・市役所ロビー物販会
10月	イエローレシートキャンペーン・栄光時計ビル前物販会・鳥取／島根旅行・JAIFA物販会
11月	ポジティブ生活文化交流祭出店・大阪旅行
12月	大掃除・イエローレシートキャンペーン・クリスマス会・忘年会
【2013年】	
1月	初詣外出・成人のお祝い・モモシネマ
2月	バレンタインデーイベント・車椅子バス観戦・ワーホリスタッフ歓迎会
3月	デーセンター音・on内覧会・ホワイトデーイベント・選抜高校野球観戦・スプリングコンサート

デーセンター機関車

活動状況：

利用者さんの増加に伴い今年度6月にはそれまでの11名から13名に定員を増員。昨年度に引き続き取り組んできた拠点の移転先選定にもようやく目途が立ち、来年度中の移転完了を目指しているところです。

一方、自主製品制作の方面では、ビー玉アートを応用した新商品の開発に力を入れました。リサイクルショップで取り扱っている古着にビー玉アートを描いて加工したパスケースやペンケース。箸袋にビー玉アートを描いて商品化した「祝い箸」や「彩り箸」などを考案。取り分け「彩り箸」は、地域のイベントへの積極的出店のほか、受注による製作・販売も好調で、利用者還元金の大幅アップにつながりました。

年間行事：

【2012年】 4月	入所式・リラクゼーション
5月	北海道旅行・キカンシャシネマ
6月	出張美容室・大阪歯科大生実習
7月	石川旅行・流し素麺・プール外出
8月	万博公園ガレッジセール・バースデー会
9月	東京旅行・Torute店頭販売
10月	栄光時計ビル前物販会・鳥取/島根旅行
11月	ポジティブ生活文化交流祭出店・大阪旅行
12月	クリスマス会・ワーホリスタッフ送別会・箸袋制作
【2013年】 1月	初詣外出・成人のお祝い
2月	バレンタインデーイベント・車椅子バス観戦
3月	雛祭り・ホワイトデーイベント・選抜甲子園観戦・スプリングコンサート

デーセンター夢飛行

活動状況：

夢飛行も利用者さんの増加により今年度6月、定員を31名としました。引き続き阿倍野区新拠点の整備と拠点分割の早急な対応が必要です。

今年度はビー玉アートを中心とした自主製品の制作・販売に力を注ぎました。「手づくり製品」をメインとしたマーケットへの出店のほか、Toruteで繋がりをもった他事業所との連携を積極的に推進。ビー玉アートデザインの段ボール製額縁制作やTシャツ制作といった形で、その連携が実を結びました。

リサイクルショップの売上も好調で、自主製品の売上も含めると過去最高であった昨年の売上げ記録をさらに更新。これを受けて、「店舗」としての魅力を一層充実させ、地域との繋がりをより深めていくべく、リサイクルショップ主体の外出企画やワークショップ企画を準備中です。

年間行事：

【2012年】	
4月	入所式・国際文化教室
5月	消防訓練・北海道旅行・新スタッフ歓迎会
6月	誕生日会・出張美容室・大阪歯科大生実習・人形劇
7月	流し素麺・七夕イベント・石川旅行・大掃除
8月	グループ外出・夏祭り Week・夏休み一日体験・万博公園ガレッジセール出店
9月	東京旅行・誕生日会
10月	栄光時計ビル前物販会・鳥取/島根旅行・「引っ越しまし展」外出
11月	グループ外出・「てんまーと」出店・ポジティブ生活文化交流祭出店・大阪旅行
12月	ワーホリスタッフ歓迎会・クリスマス会
【2013年】	
1月	初詣外出・成人のお祝い・誕生日会
2月	バレンタインデーイベント・車椅子バス観戦
3月	夢飛行シネマ・選抜高校野球観戦・スプリングコンサート・ホワイトデーイベント

ことのは

今年度11月1日をもって法人として初となるケアホーム「ことのは」が正式にオープンしました。重症心身障害者と呼ばれる利用者さんの「手足」ばかりでなく「言葉」にもなっていこう——「ことのは」は単純な「終の棲家」としてのケアホームではなく、利用者さんの「言葉」に成り代わって、「障害の重さは、決してその人が自身の人生の主役であることを妨げるものではない」ということを発信していく、そんな姿勢の原点ともしていききたい。そうした思いが名称には込められています。

7名の入居者さんたちは、週1~2回の宿泊から始めて徐々に宿泊日数を増やしていき、年度末には週5日を「ことのは」で過ごし、残り2日をご実家で過ごすという生活リズムを整えてきました。急激な生活環境の変化が心身の負担とならないかという懸念もありましたが、7名とも大きく体調を崩すこともなく、ご自分のペースで新しい生活に適應されつつあります。1月には関係者を招いての新年会も催し、改めて入居者さんたちの新生活スタートをお祝いしました。

今後は近隣の方々や地域の自治会とも着実に繋がりを築いていき、入居者さんの地域生活の充実を図ると同時に、「ことのは」自体が「家庭」としての役割を十分に果たしていくことができるよう、スタッフ体制の整備ばかりでなく「日中を過ごす通所施設とは違うのだ」という意識転換についても取り組んでいく必要があります。



デーセンター音・on

デーセンターモモの家の利用者さん増加に伴い、拠点を分割。年度末の3月、港区の弁天町駅近くについに完成しました。内覧会も終え、来年度4月1日の正式オープン（定員12名を予定）に向けて、着々と準備を進めているところです。「音」は「穏」や「温」とも通じ、利用者さんと共に、「穏やか」で「温か」な「音」を奏でるように、ゆったりと日々を過ごしていけるようにしたいという想いが込められています。都会の賑やかな音、海から聞こえてくる波の音、船の音——様々な「音」が折り重なる港区という街に相応しい名称を選びました。

一方「音」は英語の“on”とも同じ発音です。重度の障害を持った利用者さんたちの充実した日常生活を共に創っていくことが私たちの仕事。一日一日、焦らず弛まず、大切な日々を「積み重ねていく」という意味で“on”という言葉も名称に入れることにしました。これからこの場所で、どんな「音」が奏でられ、どんな日々が“on”されて（積み重ねられて）いくのか——利用者さんとスタッフ、そして地域の人たちと共に「音・on」を盛り立てていきます。



被災地支援活動

今年度も6月～11月、通算で第4期目となるスタッフの被災地派遣を実施しました。

8月に敢行された「みちのくTRY」(全国から集まった障害当事者が岩手の被災沿岸地域を徒歩で縦断し、行政に対して被災地における交通バリアフリー等の現状改善を要求しました) については、準備段階から関わり、実際のイベントへも派遣スタッフが参加しました。

また、利用者さんやご家族、スタッフ、後援会等より募った義援金（約180万円）の寄付先であるNPO法人「響生」（ひびき／岩手県一関市）が義援金を活用して実施した「ふれーるプロジェクト」（被災沿岸部在住の重症心身障害児・者とそのご家族間での交流促進を目的とした体験型プロジェクト）についても、10月中旬の実施に合わせてスタッフを派遣。現地の重心当事者との関係作りに糸口をつけました。



その他、地元スタッフによる運営にシフトした「被災地障がい者センターみやこ」（岩手県宮古市）の活動サポートも継続。11月には派遣スタッフが講師となり、重症心身障害者の地域生活に関わる私たちの活動を現地主催の「講習会」にて紹介させていただくなど、派遣スタッフの活動内容にも広がりが見られるようになりました。



一方で「大阪にしながらできる支援」として、被災地からの障害当事者・支援者の来阪訪問受け入れや、観光のガイドヘルパー的支援、第3回ポジティブ生活文化交流祭での委託自主製品販売等に取り組みました。



年明けから年度末にかけては、「センターみやこ」のNPO法人化～事業所化という現地の状況変化を踏まえ、今後の被災地支援の在り方についてスタッフ有志による協議を重ねました。震災から2年。「非常事態」を脱した今からが「正念場」という認識で、結果としては今後も派遣活動を含めた被災地支援を継続していくことになりました。具体的な取り組みについては、大阪と現地の状況を照らし合わせながら検討していく予定です。

リサイクルショップ・自主製品・利用者還元金

リサイクルショップ・自主製品

各施設に併設しているリサイクルショップの活動では、リサイクル品の販売もさることながら、今年度は特に自主製品の販売に力を注ぎました。例えば「自主製品のみ」を扱うイベントに各施設単位ではなく、「ゆうのゆう」として積極的に参加（写真一番上）。スタッフが所属施設の枠を超えて製品の販売と活動のPRに努めました。また夢飛行では、スタッフの知人による受注で、ビー玉アートを応用したTシャツ制作（写真上から二番目）のほか、便箋や封筒（写真上から三番目）、結婚記念日に贈る絵を飾る額縁（写真一番下）を制作。機関車では同じくビー玉アートを応用した「箸袋」を発注のあった飲食店に定期的に納品するなど、独自の受注販売を展開。自主製品のみの上としては過去最高の結果を出すことができました。



利用者還元金：

利用者還元金にはリサイクルショップ・自主製品の売上のほか、「実習生を指導するのはスタッフばかりでなく利用者さん本人である」との考え方にに基づき、各施設での実習受け入れ費用もこれに含まれます。

今年度は夢飛行と機関車がリサイクルショップと自主製品の売上で過去の記録を更新しました。しかし一方で、モモの家が売上げを大幅に減じたこと、被災地へのスタッフ派遣継続等に伴う人員体制の都合上、実習生の受け入れにも制限を設けざるを得なかったこと、昨年度に引き続き還元金を受け取る利用者さんが100名を超えたことなどから、1名当たりの還元金額は昨年度よりも減じてしまいました。現在注力している自主製品やビー玉アートにいかにして「付加価値」をつけていくか、さらなる工夫と努力が求められます。



【利用者還元金の内訳】

	モモの家	機関車	夢飛行	合計
ショップ売上	113970 円	234651 円	531859 円	880480 円
ヘルパー2 級実習	73500 円	21000 円	94500 円	189000 円
歯科大実習	15000 円	15000 円	15000 円	45000 円
合計	202470 円	270651 円	641359 円	1114480 円

1 名当たりの還元金額 = 10610 円 (昨年度 = 12452 円 / 人)

旅行

今年度も事前アンケートによって希望調査を実施した結果、以下の 5 箇所への旅行となりました。

行先	参加利用者数	参加家族数
北海道 (5 月)	14 名	7 名
石川 (7 月)	24 名	6 名
東京 (9 月)	7 名	5 名
鳥取・島根 (10 月)	20 名	10 名
大阪 (11 月)	12 名	2 名



今年度は 2010 年度の韓国旅行に次いで 2 度目の「2 泊 3 日旅行」かつ「飛行機を利用した旅行」として北海道旅行を敢行しました。参加された利用者さんの体力消耗が懸念されましたが、旅行中も旅行後も大きく体調を崩された方は出ず、成功裡に終わりました。また、飛行機に搭乗する際、普通座席で座位を取ることができない利用者さんについてはストレッチャー固定による搭乗を行いました。これは私たちの旅行としては初めての経験で、大いに今後の参考となりました。



その他の行き先についても、タイムテーブルの組み方等、種々改善点は出てきたものの、参加者全員無事に 1 泊 2 日の旅行を満喫することができました。次年度以降についても飛行機利用や 2 泊 3 日を含めた内容を視野に入れながら、充実した旅行の企画に取り組んでいきます。

後援会

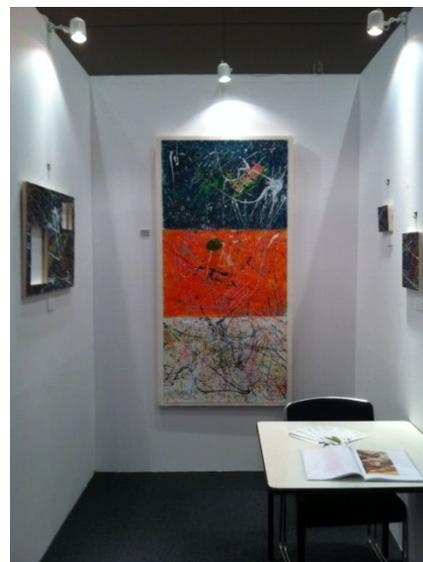
延べ会員数は1000人を超えていますが、逝去等の理由による退会もあり、最近の会員数は伸び悩んでいます。現在、生活介護施設新拠点の設立（阿倍野区）と整備（デーセンター音・on / 港区）、機関車の移転（都島区）が控えています。福祉制度の行方が混沌とする中、多くの方々に私たちの活動を支えていただくことの重要性は日増しに高まる一方です。そして、使途自由な運営費の確保もまた欠かせません。



しかし他方、友人・知人等に呼びかけ、後援会員を勧誘・獲得できる関係者やスタッフは全体のごく一部です。「後援会員の獲得」＝「私たちの活動に対する理解・共感を財政面の充実に結び付けること」 スタッフ一人一人に、自らの仕事や利用者さんたちのことを「言葉」にして発信していく姿勢と実践がより一層求められます。

絵画

私たちの活動や利用者さんたちのことを、より多くの人々に「もっと知ってもらいたい」今年度は積極的な「情報発信」と「共感・理解の広がり」に重点を置いた取り組みに注力しました。その一環として、長年取り組んできた「ビー玉アート」の作品（作品名：「つながり」、他2作品）を全国規模のアートフェアに出展。一次審査（WEB審査 / 競争率約5倍）を見事突破して、最終審査に入選することができました。



惜しくも入賞は逃しましたが、アートを通じて「私たちのことを一人でも多くの人に知ってもらおう」という目的自体は、概ね達成されたのではないかと思います。今回のアートフェア出展は、ビー玉アートが「私たちのことを知ってもらおうため」の立派な「一つの語り口」であることを改めて教えてくれました。これからも、利用者さんたちにとって、日常生活の楽しみや充実の起爆剤となるよう、また、利用者さんの「言葉」となって様々なことを発信していくための

武器となるよう、クリエイティブな取り組みにしていきたいと思います。

リキテックス・アートプライズ 2012 :

イギリス・bonnyColart 社製のアクリル絵の具「リキテックス【Liquitex】」を用いたアート作品のコンペティションイベント。最終審査は2012年9月29日、東京・六本木の「ラフォーレミュージアム六本木」で開催されました。

スプリングコンサート

「静かな」環境と気持ちで楽しむことが一般的とされるクラシックコンサート。しかし、重症心身障害者と呼ばれる利用者さんたちの場合、「大きな声が出てしまう」「医療的ケアが必要で、大きな音が出る吸引器を使っている」などの理由で、どうしてもクラシックコンサートと縁遠くなってしまいがちな方々も中にはいらっしゃいます。そんな利用者さんたちでも存分にクラシック音楽を堪能できるようにと、プロの音楽家を招待し、広い会場を貸し切って「オータムコンサート」を開催したのが2008年。



その後、「障害の有無にかかわらず誰もが本格派クラシックを堪能できるコンサート」をコンセプトとして毎年開催してきました。2010年度からは、大阪音楽大学管弦楽団の皆さんに演奏を依頼するようになり、会場も大阪国際交流会館を利用するなど、その内容、規模共に年々本格化。特に今年度は、早い段階からの広報活動、自主制作イベントTシャツの販売などに力を入れ、一層の集客と開催費用の確保に取り組みました。結果としては、300名を超える方々がご来場くださり、観客数としては過去最高の記録を残しました。この結果に甘んじることなく、より一層の内容の充実、観客動員を目指し、それを通じて私たちの活動や重症心身障害者と呼ばれる方々についてより多くの方々に知っていただく機会をつくっていきます。

医療的ケア

利用者さんたちの加齢や障害の進行等により医療的ケアの必要性は増す一方です。今年度からは「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正が施行され、痰の吸引や経管栄養注入といった行為を一定の要件を満たした介護職員が実施できるようになりました。法人としても、スタッフに必要な研修（基礎研修・実地研修）を受けさせ、これに対応すべく態勢を整備してきました。

他方、スタッフの支援が「生活支援」でなく「医療技術支援」に陥ることのないよう、重症心身障害者に対する支援の意味や目的を一人一人のスタッフが常に自問自答する必要があります。医療的ケアの実施と同時に、スタッフが「福祉職」としての本分を見失うことのないようにするための環境整備もまた法人としての課題となっています。

スタッフ体制

今年度はケアホームや生活介護施設の新設を見据え、13名（男性4名/女性9名）の新卒スタッフを採用しました。また2013年度については、6名（男性2名/女性4名）の採用が決まっています。

依然として、スタッフの年齢構成は比較的若く、配置としても「1.7:1」の水準を満たしています。しかし、冒頭でも触れたように、徐々にではありますが、スタッフ間にも「世代の幅」が生じてきています。それに伴ういわゆる「世代間ギャップ」や、拠点の拡散による活動上の「施設間ギャップ」の顕在化への対処も今後必要になってくるものと思われるます。

昨年度に引き続き、今年度も「新人他施設研修」（新人スタッフが一定期間配属先施設を離れ、法人内他施設で活動）を実施し、「法人スタッフ」としての意識を醸成する一助としました。一方でこの取り組みは「今自分が身を置いている配属先の現状」を見つめ直す一助ともしたい。それが功を奏することで、各施設が改善すべき課題を自ら見付けて解決し、また自施設の特色を活かした活動を盛り上げていくことができるのではないかと考えます。世代間ギャップも施設間ギャップも、歓迎すべき「ユニークさの共存」としていけるような仕組みを今後も模索します。

決算

11月より共同生活介護事業（ケアホーム）「ことのは」を開設、スタートさせました。7人の利用者さんが人生のうえで新たなステージに立ったのと同時、私たちもまた新しい活動の局面を迎えたことを意味します。

現在、重度訪問介護での対応を行っており、ケアホームの運営費は生活介護よりの“持ち出し”となっています。また来年度4月より新たにスタートする「デーセンター音・on」の改修費等も決算に影響しました。

2013年度

引き続きスタッフの確保に努め、ケアホームを名実ともにケアホームとしてスタートさせる予定です。しかし、ケアホームの運営費はその重要性と比較して貧弱であるという指摘はさまざま行われており、ケアホームとしての運営が良いのか、ヘルパーを利用して“個人宅”としての活動が良いのか、スタートした後、しばらく運営状況を確認する必要があります。

また「デーセンター音・on」が4月よりスタートします。運営が安定するまでの間、支出が増大すると見込まれ、他施設の支出削減が肝要です。しかし、スタッフのほぼ全員が正規常勤スタッフである私たちの法人にとっては、人件費が支出のなかで大きな割合を占めており、削減には限界があります。

さらに利用者さんが増えることにより、送迎費用の増大もまた見込まれます。重症心身障害者の通所にとって、送迎手段の確保は必須であり、費用増大によって送迎を中止するという選択肢は私たちにはありません。送迎費用の削減は2013年度の課題となることが相当程度予想されます。